資料1
1941年发布日恭法主的“训谕”。

訓諭第二十九號

宗内一般

本日米國及英國ニ對シ畏クモ宣戰ノ大詔渙發アラセラレ洵ニ恐懼感激ニ堪エス惟フニ我帝國ガ恭戻ナル蔣政權ヲ膺懲シ東亞新秩序ノ建設ニ着手シテヨリ既ニ四年有餘漸次其ノ實ヲ擧ゲ今ヤ日滿支三國ハ友誼愈々厚ク共榮ノ樂ヲ偕ニス然ニ英米兩國ハ此ノ實情ニ眼ヲ蔽ヒ終始重慶政權ヲ援助シテ我ト相鬩ハシメ或ハ經濟封鎖ノ手段ニ出テ或ハ列國ヲ糾合シ軍事上ノ包圍陣ヲ組織シテ我ヲ威嚇スル等帝國ノ國策ニ對シ妨害至ラザルナシ而モ帝國政府ハ平和ヲ願念シ隱忍自重友交裡ニ之ガ解決ヲ企圖セシモ倨傲不遜ナル米英兩國ハ之ニ耳ヲ藉ササル而已ナラス帝國ノ根本方途ヲ否認スルノ暴言ヲ吐ク事茲ニ到リテ此レヲシモ忍ハムカ帝國ノ存立全ク危殆ニ瀕シ現下ノ大業水泡ニ歸スベシ此ニ於テ帝國ハ遂ニ意ヲ決シ米英兩國ト戰端ヲ開始スルニ至ル今ソ我等ハ悠久二千六百餘年ノ祖先ノ遺業ヲ相承ケ蹶然起テ一切ノ障碍ヲ粉碎セサルヘカラス

幸ヒ帝國ハ御稜威ノ下忠勇無双ノ陸海軍アリ既ニ戰端開始第一日ニ於テ驚嘆スヘキ戰果ヲ擧ゲラル我等感謝ニ堪エス戰ノ前途亦以テトスルニ足ルモノアリ併シ乍ラ今次ノ大戰ハ四圍ノ狀勢ニ鑑ミ長期ニ亘ルハ免レサルトコロ我等ノ一大覺悟ヲ要ス

本宗宗徒タルモノ須ク

聖慮ヲ奉體シ　佛祖ノ遺訓ニ基キ平素鍛鍊ノ信行ヲ奮ヒ堅忍持久百難ヲ排シ各自其ノ分ヲ竭シ以テ前古未曾有ノ大戰ニ必勝ヲ期セムコトヲ

右訓諭ス

昭和十六年十二月八日

日蓮正宗管長　鈴木日恭

资料2
1942年的宗门机关报《大日莲》1月号中，出现“拜闻宣战布告之大诏，迎接光辉元朝”的文章。

月刊 大日蓮

昭和十七年一月七日發行（毎月一回七日發行）
大正六年九月十日第三種郵便物認可

第二十七卷第一號

目次

◇論説……
◇宗務院録事……
◇巻頭言……宣戦布告の大詔を拝して光輝ある元朝を迎ふ……
◇信仰の本義……管長　鈴木日恭
◇祝へ此の春……巨栗山徳
◇正法日本国必勝の春を迎ぐ……大石寺詞
◇教団交換……
◇宗門振興基金募集状況報告……振興局委員一同
◇雑報……板垣静

一月號

资料3

1942年的宗门机关报《大日莲》1月号中，刊登日恭法主的新春致词。其中有这么一段。

聖戰として天地を貫く。富士の麓と共に先づ第一に國運の振張と、皇軍の武運長久を祈念し、大東亞建設の使命遂行の早からん事を……

それ神武聖帝は、八紘一宇の顯現を勅宣し給ひ。吾祖大聖人は「世界とは日本國なり」と宣言し。立

の發露と言はざるべけんや。然りと雖へども吾が日本帝國は米英に對して開戰を布告し。開戰三日を出ずして。全大平洋に果敢なる。戰果を擧げ豪壯なる英東洋艦隊は殿堂の崩るゝが如く全滅を喫した、ハワイにマニラに世界戰史に比類なき輝々たる、大戰果を擧げたることは。吾が國民をして感激の感涙にむせばしむると共に全世界を驚倒せしめ。全太平洋の制海制空權は全く帝國海軍の掌握するところとなれり。

是れ實に我が大君の御威光は申すに及ばず帝國軍人の武勇の賜に外ならないのである。

此處に於て銃後國民は老幼男女の別なく、聖戰に挺身する戰士と心得勝利に酔はず勝つて兜の緒を締めて堅忍不拔の精神と巌石の如き團結を以つて各々其持場を守り。大勇猛心を起し。倍心を倍增し、益んで大和を發揮し、誠忠報國の至誠を貫かん事を、

新國するのみぞれ國土の安穩と天下泰平とは妙の祭

懷たる富士獨一の宗運を聞き。五拾有餘萬の用團は靈山護法の精神となりて、萬代の基礎を造り。末代法燈を繼ぐべき、學林の完成するに到りしは實に是れ學宗一致の實現にして、我體同心の信念が直達正觀の淨智に隨つて求劫不壞の法界に躍飛する、純信

りを行つて、始めて成就する事を得ん

「妙とは生なり」「法とは死なり」

妙とは八紘一宇を言ひ法とは天壤無窮の根源を意味するなり即ち八紘一宇の使命遂行に對して、一死報國の誠を捧げ「世界とは日本國なり」の實顯こそ宗祖出世の御本懷である。

「佛法やうやく顚倒しければ世間又濁亂せり、佛法は體の如く世間はかげの如し、體曲れば影なゝめなり」

末法萬年の長夜を照すべき正法の本體は毅然として立正であらねばならぬ。

「妙の一字は外の事に非ず我等が心法也」

佛の御心は法華經であり。宗祖の御魂は南無妙法蓮華經にてましますが故に

正直に方便を捨てゝ但法華經を信じ、南無妙法蓮華經と唱ふる人は煩惱業苦の三道法身般若解脫の三德と轉じて三觀三諦卽一心に顯はれ、其人の所住の處

资料4
1943年6月6日的《读卖新闻》里一份报导的内容

悼念英魂 铃木日恭法师 参拜的感激
将山本元帅永久地供奉神灵的5日当天，富士郡上野村日莲正宗总本山大石寺住职和同派管长铃木日恭法师（75岁）也上京，恭敬地拜祭。日恭法师这么说道：
“山本元帅的战死，对国家来说是一大损失。山本元帅为了‘正义’而奋力击灭英美敌人，若我们不继承他这精神、护卫国家，就无法令元帅的英灵安息。在今天的参拜中，无法控制不难过流泪，回去后，我将竭尽所能，教育青年贯彻山本元帅的精神。”［照片为日恭法师］

英魂に報いん
鈴木日恭師
参拜の感激

山本元帥の御魂永久に御鎮つた五日、日比谷の國葬場には葬列する高位高官、一般民が悲しみと憤りの長い列を作つたが、富士郡上野村日蓮正宗總本山大石寺住職同派管長鈴木日恭（七五）師も特に上京恭々しく御拝を捧げた、同師は語る
「山本元帥が戦死せられて國家のため非常に惜しいことをしましたが、私達は正義に邪魔する英米を撃滅する迄この山本魂を心としてしつかり銃後を護らなければ、元帥の英霊にひくいることにならないと思ひます、けふは祭祀してゐる間中泣けてく仕方がありませんでした、帰つたら私も大いに奮起して若い人達が山本精神に徹する様教育する積りです【写真日恭師】

资料5
1944年1月13日的《静冈新闻》里一份报导的内容

响彻击灭英美的斧声 大石寺的二百棵巨木即将出阵 ［富士宫支局］
日莲正宗总本山大石寺在思想战的第一线活跃着，在青年僧侣秋田法师热忱满腔的呼吁下“僧侣啊，下山吧。宗教者也参加战争，交出战绩”，连管长们也去到末寺，催促信徒支持战争，还供出寺内200棵拥有六百多年历史的巨大树木，表示希望能以它们制造更多的船舶派往前线。为了示范这捐赠树木的行动，铃木日恭法师以下全山的干部参列，举行庄严的佛教式伐木仪式。斧头砍木的声音和南无妙法莲华经的题目声一同响彻四方，将成为击灭英美敌人的船舶材料的巨木，一棵棵显得魁伟非常。“［照片为日恭法师在伐木仪式时诵经］

大石寺の巨木二百本愈々出陣

【富士宮支局】二百年の歴史にコダマする総本山大石寺は六百余年の歴史を誇る時代の巨木二百本を供出、一船でも多く前線へと出本に力強く鎮魂の祈願を籠めることになり管長鈴木日恭大僧正以下全山幹部参列のもと伐式の第一斧に活躍してゐる日蓮正宗 斧入式も出陣に挙行、感慨たる社

経のお題目とともに力強く鎮魂の祈願を籠める巨木は一本々々米英撃滅の船材として征で行く嬉しい限りに堂々と出て行く【写真は斧入れに感慨の鈴木大僧正】

资料6
1944年1月14日的《静冈新闻》里一份报导的内容

铜制屋顶也能有所帮助 有600年历史的大石寺供出 ［富士宫支局］
富士郡上野村日莲正宗宗本山大石寺召开宗会议员会议，提出在蒙古入侵时大圣人曾一语道破，呼吁“举国一同面对国难”，检讨身为应唤起全国人民支持“统一全国力量取得战争胜利”这国论的大圣人门下应采取的行动，并以希望“将更多的子弹送往前线”的理由，决定将山门和本堂的铜制屋顶供出。

資料7（上） 1941年8月24日的院达
資料8（下） 1941年9月29日的院达

院第二一七七號

昭和十六年八月二十四日

宗内教師殿

日蓮正宗宗務院

今般上尾會議ノ協議ヲ經テ參議會ニ諮問ノ上左記ノ條項決定候條御了知相成度候

記

一 御書刊行ニ關スル件

宗祖日蓮大聖人ノ御言ハ鎌倉時代ノ國情ノ下ニ御述作遊バサレタモノ現下ノ社會ノ狀勢ニ於テハ却ツテ宗祖大聖人ノ尊皇護國ノ御精神ヲ誤解スル有アルニ鑑ミ御書全集ノ刊行ハ今后禁止致シ本宗依用ノ組書要典ノ新ニ発行スルコト

二 他迹說ニ關スル件

本地垂迹說ハ一般佛教ノ通達ノ說ニシテ宗祖已来日本國所立ノ佛法トシテ採ラザル本宗ハ第一義ニ於テ依用セザリシハ勿論ナレドモ方今世上ノ論議ニ顧ミ一層此点ニ留意徹底セシムベキコト

以上

教第八號

昭和十六年九月廿九日

宗務院教學部長

教師住職教會主管者宗教結社代表者殿

今般雪山書房発行祖文纂要ノ要文中左ノ字句ヲ削除シ法話講演等ニ引用セザルコトニ決定致シ候條左様御了知相成度

記

廣宣流布ノ大願

一切法門ノ肝心ノ主 教主釋尊ナリ 春屋宥勝 同上文

此日本國ノ 入日本國ノ 御教師ナリ

斯ル佛ノ 森ノ如ク

此ノ大科 隨ヲ候又

現身ニハ 隨ヲ候又

隆嶽ノ法皇 ヲ給フ

加之 豊瀧

法華經ヲ持ツ者ハ 才ホニ

天魔天神 小神ソレ

太政入道 ツヒニ

日蓮ハ スル

日本ヲ護ル 給フラン

若宮八幡 願ヲ立テ

同上文

资料9
1941年8月22日的院达和御观念文

院第二一七六

昭和十六年八月廿二日

日蓮正宗宗務院

教師檀徒會長管長宗教結社代表者殿

御觀念文制定ニ関スル件

御觀念文ハ從來種々ノ様式アリタルモ今回別記ノ如ク制定候條御了知ノ上所属檀信徒ニ徹底普及方御配慮相成度候也

日蓮正宗勤行式

御内拝ノ御案内ニ奉答申上ル日蓮宗ノ総本山ニ奉ラル

一五座ニ第一座ヨリ第五座ヲ併セ各一座トシテ可成ハ本堂中央ニ

祝座天拝　　方便品　寿量品（又ハ自我偈）引題目

謹テ宗祖天照文殊、立宗神武天皇聖門以来御代々ノ講師ヲ始シ併セテ皇国安護ノ日月天皇ノ諸願ニ活味ヲ体ス者ハ長寿納受ヲ垂給ヘ　南無妙法蓮華経

二座法宝拝　　方便品　寿量品（又ハ自我偈）引題目

現当一切教説妙法ノ流布出世本門式壇ノ大御本尊御報恩謝徳御供養ノ御為ニ南無妙法蓮華経

三座佛宝僧宝拝　　方便品　寿量品（又ハ自我偈）引題目

久遠元初自性唯本仏南無日蓮大聖人大菩薩御報恩謝徳御供養ノ為ニ南無妙法蓮華経

御脱附法ノ大導師御開山日興上人御報恩謝徳御供養ノ御為ニ南無妙法蓮華経

第二祖開祖御座主新田御阿闍梨日目上人御報恩謝徳御供養ノ御為ニ南無妙法蓮華経

四座祈念　　方便品　寿量品（又ハ自我偈）引題目

奉祈念皇室弥栄ノ誠忠九天ニ達シ天四海廣宣流布天長地久宮民一致国威増輝ノ為ニ南無妙法蓮華経　果願吾等ノ祈現在眼前ニ成就シ現当二世大願成就ノ為ニ南無妙法蓮華経（続ケ御祈念ハ九座ニ於テ為ベシ）

五座回向　　方便品　寿量品（又ハ自我偈）御題目百遍以上

日本国中ノ門徒御一同内拝信行ノ輩ハ各先祖代々ノ精霊追善供養ノ為ニ南無妙法蓮華経其先祖代々ノ精霊追善供養ノ為ニ南無妙法蓮華経（御一同御内拝ノ此處ニ於テ為シ御内ノ人ハ鈴ヲ打ツコト）　題目三唱

乃至法界平等利益自他俱共ニ成仏道南無妙法蓮華経（鈴ヲ上ヲ打ツコト）

资料10
宗门出版的小册子《日莲正宗与战争责任》。
其中，针对新加坡《联合早报》专栏作家陆培春的批评，指宗门支持军国主义、毫无反省，宗门做出反驳说“以结论来看日莲正宗对战争的煽动，并没有超过国民一般的感觉”。

日蓮正宗と戦争責任

時局協議会

はじめに

今年３月２７日の聖教新聞にシンガポール「連合早報」コラムニスト陸培春氏の「”軍国主義”加担の反省なき宗門　学会に息づく健全な国際感覚」との記事が掲載された。

陸氏は「仏教教義の詳細にコメントしうるものではない。」

結論として日蓮正宗の戦争加担は、国民一般の感覚以上に突出していたとはいえない。また、一切衆生救済の根本尊崇の大御本尊と、一切衆生の信仰を正しくするために、日蓮大聖人から伝えられた教義の秘伝を軍部の圧政と日蓮宗身延派等の野望によって破壊侵害されないために、表面上国策に従い、実際にはそれを無効にしたのである。